

生物多様性

生きものたちの個性とつながり

「ジオス（世界農業遺産）」は、世界的に重要な農業上の土地利用、景観、生物多様性の保全を推進することを目的としています。

ジオスを理解するうえで、重要なキーワードとなる「生物多様性」とは、何でしょうか？

私たちの暮らしは、すべて地球上の生きものとのつながりです。水も空気も食べ物も、地球のさまざまな生きものがいなくては得られません。

私たち人間も、このような生きものの一つであり、さまざまな生きものとのつながり、支えあつて生きています。こうした多様な生きものつながりが「生物多様性」です。

生物多様性は、それぞれの地域の環境の中で、生態系のバランスを保ちながら育まれてきました。しかし、日本や世界各地では、そのバランスが崩れ、危機的状況です。①開発や乱獲による種の減少や絶滅、生息・生育地の減少、②「里地里山」などの手入れ不足による自然の荒廃、③外来種などの持ち込みによる生態系の乱れ、④地球温暖化などが原因で、生物多様性が失われつつあります。

生物多様性は、自然環境が良いことの

証明です。私たち人間の活動が生物多様性に与える影響を、もう一度考えてみる必要があります。

私たちの暮らしを支える生物多様性を守っていくために、例えば、農業では、島全体で取組みが広がっている「生きものを育む農法」があります。これは、農薬や化学肥料を削減するだけでなく、生きものが暮らしやすい水田環境を作り出す農法です。江（深み）・魚道等の水路・ビオトープの設置や、冬期湛水によって、豊かな生態系を維持しています。また、毎年6月第2日曜日と、8月第1日曜日を「佐渡市生きもの調査の日」とし、田んぼやその周囲にいる生きもの調査を実施しています。

また、豊かな生活と生きものの営みを維持するため、「水」の安定確保と、水辺の環境を保全することが大切です。

そのためには、「里山」をみんなで整備し、水源かん養機能向上に取組み、その貴重な水の有効活用と生活排水等の浄化機能の向上を図ります。

私たちの暮らしの基盤である生物多様性を意識することは、地域を意識することでもあります。緑豊かな「里山」から潤いと環境に優しい「里地」づくり、そ



小倉千枚田

して豊かで美しい「里海」づくりを、市民の皆さんと協働して取り組むことを目指しています。

※水源かん養機能・・・森林の土壌が雨水を貯えて、河川への流れ込む水の量を安定させ、洪水や渇水になるのを防ぎ、また、その過程で水質を浄化する働き。